

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
上田市立菅平小・中学校	上田市教育委員会	公

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
上田市菅平小学校	http://www.school.umic.jp/sugadaira/
上田市菅平中学校	http://www.school.umic.jp/sugadaira/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
上田市 菅平小学校	http://www.school.umic.jp/sugadaira/news/hyoka/	http://www.school.umic.jp/sugadaira/news/hyoka/
上田市 菅平中学校	http://www.school.umic.jp/sugadaira/news/hyoka/	http://www.school.umic.jp/sugadaira/news/hyoka/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

- ・ 校務分掌（教科指導）に「スキー科」「英会話科」を設置。
- ・ スキー科では、本校職員の他に各学年に応じて保護者や地元スキークラブから派遣されたコーチ等による指導を行っている。
- ・ 英会話科では、小中併設校の利点を生かし、中学校英語科職員が小学校に乗り入れ授業を行う時間を設定している。

菅平小学校 教育課程表

	各教科の授業時数										道徳	外国語活動	総合的な学習	特別活動	特例		教科総時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					英会話科	スキー科	
1 学年	306		136		102	68	68		102		34			34	10	3	863
2 学年	315		175		105	70	70		105		35			35	10	5	925
3 学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	60	35		10	980
4 学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	55	35		20	1,020
5 学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		55	35		25	1,025
6 学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35		55	35		25	1,025

菅平中学校 教育課程表

	各教科の授業時数									道徳	総合的な学習	特別活動	特例		教科総時数	
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語				英会話科	スキー科		
1 学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	35	10	15		1,025
2 学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	35	20	25		1,025
3 学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	35	20	25		1,025

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

ホームページにより活動の様子を報告している。合わせて年間に8～10回、学校だよりを全戸配付し、小・中学校の活動について情報を提供している。学校だよりは学校ホームページにも掲載している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

特別の教育課程の編成により、スキー科については、地域の特性を生かしたスキー活動を通して、心身ともに健全でたくましい児童生徒の育成を図っている。英会話科については、低学年から日本語と異なる言語を用いたコミュニケーション活動の楽し

さを体験し、言語や文化に対する興味関心を高めている。

一方、特別の教育課程を進めるにあたり、スキー指導者の確保、地域での英会話を実践する機会の確保、休日における職員のスキー大会引率頻度の高さが課題となっている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

児童生徒が郷土や学校に愛着と誇りをもち、地域の多くの方々の期待を受け温かく見守られていることを様々な学習や行事の場面で実感することで、素直に学び学校生活を送る児童生徒が多く、学校教育目標である「郷土を拓く大地の教育」を実践している。英会話については、低学年から外国語に慣れ親しむことで、学校に派遣されるALTとも楽しく触れ合うことができ、英会話科の設置効果が出ていると考えている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

指導者の確保については、地元に戻ってきている若い世代に幅広く声をかけたり、スキー大会において好成績を上げていき改めて地元の方々に注目していただくことで、学校活動に協力していただける方を増やしていくようにしていきたい。

英会話の実践は、スキー活動、生活科や総合的な学習の時間において地域に出る活動の中で、スキーや観光、合宿に訪れている外国の方と話す場面を想定し、事前学習を行った上で活動を行い、学校で取り組んでいることが実際の生活の中で活かすという実感をもてる場面を作っていく。